

はじめに

平成28年度は委員交代の年度であり、FD委員会も新メンバーでのスタートとなりました。新体制での活動にあたり、改めて本学のFD活動について、FD委員会規程を確認すると、本委員会の目的は、「建学の理念及び教育目標に基づき、教員の資質向上と教育研究活動の充実・発展の推進（第2条）」であり、その業務はFD活動に関しての、(1)企画立案、(2)実施計画の策定と評価、(3)報告、(4)情報収集と提供、(5)関係団体との連携等、とされています（第3条）。

本委員会は、上記の考えに沿ってFD活動を具体化してゆくこととなりますが、まずは(1)の企画立案に関わる活動として、一年間の活動の概要を年初に決定し、これに沿って(2)～(5)の活動の詳細を毎月開催される委員会において審議・決定して参りました。今年度については、年初の委員会において“前年度の活動を継承しながら、改善すべき点や発展可能性について検討して行く”という方針が決定されました。そこで、この決定に沿って次のような事業を企画し、実施いたしました。

1. 学部生による授業評価アンケートを前期と後期に、大学院生による教育評価アンケートを後期に実施しました。また、アンケートの結果を教員に伝え、教員は受講生に向けたフィードバックを行い、この内容を学内で共有しました。
2. 年間4回、講演や実習等を含めた研修会を学内で実施しました（うち、1回は全学研修会）。前年度に準じた複数回の開催により、教職員の学ぶ機会を確保するようにしました。
3. オープンクラスは、原則、全ての学部授業を公開とし、前期2週間・後期3週間をオープンクラス・ウィークとして、教職員や学生が自由に授業を参観できる機会を準備しました。また、参観者からのコメントを被参観の教員にフィードバックすることで、授業改善の一助となるようにしました。
4. 外部講演会や研修会等についての情報提供を折々に行い、教職員への啓発活動を行いました。また、本学は公益財団法人 大学コンソーシアム京都の加盟校であることから、第22回のFDフォーラム「大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～」にも積極的に関与してきました。今年度も、FD委員会委員が一分科会「教育の多様化の中の女子大学という選択」をコーディネートして、全国に向けたFD活動の普及や情報発信、関係機関との交流・連携の機会を持ちました。

以上の活動についての詳細と振り返りを本報告書としてまとめました。掲載されている様々なデータから、本学の教育活動の現状を読み取ることができます。また、FD委員が執筆を担当した部分では、今後の課題についても言及しています。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる発展と向上に役立てていただけるよう、お願いを申し上げます。新しい機器やシステムの導入、昨今の学生気質の変化等の教育・研究環境の変化にも対応しつつ、

教職員一同が継続的にFD活動に取り組んで行けるよう、FD委員会は今後も様々な業務を推進して行きたいと考えています。

2017（平成29）年3月

京都ノートルダム女子大学  
FD委員会委員長 向山泰代